

ソーシャルワーク演習

[演習] 第3学年 通年 選択 2単位

- 《履修上の留意事項》1. ソーシャルワーク実習 ・実習指導 を履修する学生は、必ず履修すること。
2. ソーシャルワーク実習 履修生は、ソーシャルワーク演習 の単位を修得済みであっても、当該年度に本科目を受講(聴講)する必要がある。
3. ソーシャルワーク実習 に向けた重要な前提科目であるため、前期に7割以上の出席していない場合は、実習中止とする。
4. グループワークを中心とした演習という性格上、他の学生の学習の妨げとなるため遅刻は欠席扱いとする。

《担当者名》 巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp 奥田 かつり 宮本 雅央 近藤 尚也 片山 寛信

【概要】

ソーシャルワーク演習 . . . での学びを統合し、ソーシャルワーク実践を形成する要素としてのソーシャルワークの価値、人間と環境、地域社会の把握と理解、ソーシャルワーク実践アプローチ、実践技法に関する知識とスキルについて、演習を通して学ぶ科目である。

【学修目標】

1. 模擬事例をもとに、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、援助関係を基礎とした専門的援助技術を実践することができる。
2. 模擬事例をもとに、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援を検討することができる。
3. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組み・方法を説明できる。
4. ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチの必要性について説明することができる。
5. 実習体験事例に関する事例研究を用いて、ソーシャルワークの価値規範を踏まえた倫理的な判断ができる。
6. 実践の質の向上を図るためのスーパービジョンを求めることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none">・ソーシャルワーク演習 の展開方法が説明できる。・ソーシャルワーク実習指導 との連動について説明できる。・アセスメント報告事例をもとに、ソーシャルワークが向ける関心を列挙できる。	巻、宮本、近藤、片山
2	クラス別オリエンテーション クライアント像を描く	<ul style="list-style-type: none">・クラス別演習の展開方法が説明できる。・模擬事例に対する模擬的情報収集を行うことが出来る。・模擬的情報収集に対し創作事例情報を相互に示すことが出来る。・本人・家族の価値観や性格について創作することができる。・クライアント・家族の生活歴の関連性を描くことが出来る。・ファシリテーションのポイントを説明できる。	巻、宮本、近藤、片山
3	複合的課題を抱える家族への支援	<ul style="list-style-type: none">・複合的課題を有する家族の模擬事例に対する関心を指摘できる。・複合的課題を有する家族が抱える問題を指摘することができる。・クライアントが気になっている課題を知る。・課題解決アプローチを模擬的に実践できる。	巻、宮本、近藤、片山
4	複合的課題を抱える家族への支援	<ul style="list-style-type: none">・複合的課題を有する家族について情報収集することができる。・複合的課題を有する家族に対する客観的ニーズ判断ができる。・複合的課題を有する家族の持つストレスを指摘することができる。・複合的課題を有する家族に対するアセスメントができる。	巻、宮本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	複合的課題の背景にある社会問題	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的課題の背景を調べ、課題解決に向けた糸口・方策について考えることができる。 ・非正規雇用が続く家族の背景を知ることができる。 ・社会福祉士によるソーシャルアクションを例示できる。 	巻、宮本、近藤、片山
6	居所選択をめぐる意思決定支援(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期における居所選択をめぐる意思決定支援について検討することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
7	クライアント像を描く(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・面接で得られた情報を踏まえ、主観的ニーズを確認できる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
8	総合的かつ包括的な支援におけるアセスメント(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・面接で得られた情報を踏まえ、主観的ニーズを確認できる。 ・主観的ニーズの背景にある社会的側面(家庭内の役割、地域社会での役割、近隣や会社での人間関係)を説明することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
9	総合的かつ包括的な支援におけるアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で継続的な生活の実現に向けた検討を行うことができる ・必要となる地域環境に関する情報を列挙することができる。 ・地域で生活する上で必要となる資源を列挙することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
10	総合的かつ包括的な支援におけるリサーチ(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・指定する地域の社会資源をインターネットで調べ記述することができる。 ・地域資源(関係者)への質問内容を検討することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
11	グループワーク(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークに取り組むことができる。 ・ソーシャルスキルトレーニングのポイントが説明できる。 	奥田、巻、宮本、近藤、片山
12	グループワーク(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源(関係者)への聴き取りを想定したソーシャルスキルトレーニングに取り組むことができる。 	奥田、巻、宮本、近藤、片山
13	地域環境と地域資源の実践的理解(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントの生活を想定し、地域の周辺環境を自ら歩き、地域のストレングスと課題を説明することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
14	地域環境の整理と地域資源の理解(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク結果をグループ内でまとめることができる。 ・クライアントが生活する上で居住地区環境の課題とストレングスについて意見交換することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
15	分野横断的な総合的・包括的な支援(地域包括ケア演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク体験を踏まえた省察を行うことができる。 ・地域関係者や資源の役割、機能、可能性を訪問先の異なる学生に示すための資料を作成することができる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
16	地域のニーズに対応したサービス・事業開発	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の立場から模擬事例が示す地域の状況と課題認識が説明できる。 ・どこに相談したら良いかわからないニーズをキャッチすることができる。 ・地域内にある他のニーズとのつながりを検討することができる。 	巻、宮本、近藤、片山
17	地域のニーズに対応したサービス・事業開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と課題を共有し事業提案を行うことができる。 ・地域の関係者、地域集団、関係機関を例示できる。 ・地域の関係者が課題認識を共有するための方策を例示できる。 	巻、宮本、奥田、近藤、片山
18	地域のニーズに対応したサービス・事業開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに対応したサービス・事業開発に向け検討できる。 ・チームの構築手法を例示できる。 ・チームメンバーのストレングスを指摘できる。 ・住民と分野横断的な地域関係者の組織化の方策を検討 	巻、宮本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		討することが出来る。	
19	地域の諸資源と地域福祉計画	・地域を理解するために必要な情報を列挙することができる。 ・地域の諸資源と地域福祉計画の関係を説明することができる。	巻、宮本、近藤、片山
20	実践を記録する	・ソーシャルワーク実践現場における記録技法を実践することができる。	巻、宮本、近藤、片山
21	リフレクティング	・対話とリフレクティングについて概説できる。 ・外的会話と内的会話を意識することができる。 ・リフレクティングプロセスに取り組むことができる。	巻、宮本、近藤、片山
22	実習体験を踏まえたスーパービジョン	・スーパービジョンにおいてスーパーバイザーの役割を担うことができる。 ・実習体験に対する省察をもとに、ピアスーパービジョンを通じて、ソーシャルワーク支援について考察することができる。	巻、宮本、近藤、片山
23	事例検討（事例研究の検討）	・事例研究をもとに、クライアント・地域のニーズを具体化することができる。	巻、宮本、近藤、片山
24	聴くことのできる力～人生の最終段階におけるケア～ソーシャルワーカーが聴く～	・人生の最終段階における支援の概要が説明できる。 ・人生の最終段階のケアを必要としている事例に対する客観的ニーズ判断ができる。 ・人生の最終段階において、ソーシャルワーカーによる「聴くことのできる力」を概説できる。	下倉賢士(特別講師) 巻
25	プロセスレコード	・プロセスレコードを用いて、実習経験における外的会話と内的会話の構造と省察することができる。 ・プロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の思考を説明することができる。 ・自己の思考傾向を踏まえて、自己活用できる。	奥田、巻、宮本、近藤、片山
26	事例検討（事例研究の検討）	・事例研究をもとに、クライアント・地域ニーズと社会構造の関係を分析することができる。	巻、宮本、近藤、片山
27	プレゼンテーション	・実習体験をもとにしたグループでの模擬的プレゼンテーションができる。（「場と対象」はSW実習報告会を想定）。 ・模擬的プレゼンテーションの実践を省察し課題点について検討することができる。	巻、宮本、近藤、片山
28	事例検討（事例研究の検討）	・事例研究をもとに、ソーシャルワーカーの役割を検討し自らの考えを述べることができる。	巻、宮本、近藤、片山
29	ソーシャルアクション	・実習中に体験した個別課題を生み出しているメゾ・マクロレベルの構造を説明できる。 ・現在の問題解決、ニーズ充足にあたり、解決できると良い課題を例示することができる。 ・ソーシャルワーカーとしての提案を例示することができる。	巻、宮本、近藤、片山
30	ソーシャルワーカーの役割	・実践課題を設定し、ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワーカーの役割についてグループで検討することができる。 ・実践課題を設定し、ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワーカーの役割について考察することができる。 ・ソーシャルワーク演習3年間のまとめ	巻、宮本、近藤、片山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート60%、授業への主体的参加度40%（模擬カンファレンス含む）。

【教科書】

フェリックス・P. バイステック,尾崎 新・原田 和幸・福田 俊子(訳)『ケースワークの原則(新訳改訂版)』誠信書房
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワーク演習 社会専門』中央法規
八木亜紀子『相談援助職の「伝わる記録」』中央法規

【参考書】

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワーク演習 共通科目』中央法規

【備考】

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク演習(専門)」、教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)」に該当する。

【学修の準備】

1. 演習で取り上げる事例を読み、社会的背景や要因について、グループ発表できるよう調べ準備しておくこと。
2. 専門用語の意味を理解しておくこと。

【【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】】

DP2、3

【実務経験】

巻 康弘(社会福祉士) 宮本 雅央(社会福祉士・精神保健福祉士) 奥田 かわり(ソーシャルワーカー) 近藤 尚也(社会福祉士) 片山 寛信(社会福祉士)。

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、社会福祉施設・機関でのソーシャルワーカー(社会福祉士)としての実践経験を通じて得た、価値・知識・技術を活用し、実践的教育を行う。